

Tech Talk



ロータリー財団専門家グループのニュースレター・(2013年04月)

2012-13年度 テクニカル・コーディネーター

委員長と副委員長

Michael Webb (英国)

Francis Tusubira (ウガンダ)

「基本的教育と識字率の向上」

Sylvia Byers (オーストラリア)

Jones Kyazze (ウガンダ)

John Thorne (オーストラリア)

「母子の健康」

Keith Barnard-Jones (英国)

Patricia Canning (オーストラリア)

Stanley D. Fike (カナダ)

「疾病予防と治療」

Manoj Desai (インド)

Jos Nolle (カナダ)

Estela Emeric (アルゼンチン)

「経済と地域社会の発展」

Deniel Banks (米国)

Amegnizi Maurice N. Eдорh (トーゴ)

Cecilia Reyes (フィリピン)

「平和と紛争予防／紛争解決」

Caleb E. Lucien (米国)

Hugh Munro (スコットランド)

Mark Zober (イスラエル)

「水と衛生設備」

Kurt Bay (スイス)

Brian E. Foley (オーストラリア)

Vishwas Sahasrabhojane (インド)

委員長からのメッセージ

Michael Webb

ロータリー財団に寄付された資金が適切に利用されているかどうかを評価する専門家グループの活動は、引き続き行われています。2011-12年度に管理委員会により承認された補助金数は、実に2,308件に上ります(うちマッチング・グラントが1,621件、地区補助金が347件、グローバル補助金が233件)。この結果、151件の専門家グループによる評価活動が実施され、これは2007-08年度以来最多となりました。この内訳は、技術的審査が26件、中間現地視察が36件、財務監査が49件です。2012-13年度ではすでに、90件の専門家グループの評価活動が実施されています。

私は、評価中に専門家グループのメンバーが直面する問題にはどのようなものがあるのかという質問をよく受けます。主な問題は以下の通りです。

- 資金の流用または横領
- 虚偽の書類
- 無責任な管理
- 不適切な寄付
- 利害の対立
- 個人による補助金の独占
- 虚偽の会員記録

これらの問題が常に発生するわけではありませんし、実際にこのような問題が起こるのはごく限られた補助金活動のみです。

また、フランシス・”ツス”・ツスビラ専門家グループ副委員長やその他のメンバーのご尽力により、アフリカ在住の専門家

グループのメンバーが増え、現在64名となったことを大変嬉しく思います。

専門家グループを代表し、皆さまのご尽力に心から感謝いたします。

RI国際大会に先立ち、ポルトガルのリスボンで6月21日(金)に開催される専門家グループ研修セミナーにご参加いただけることを願っております。

今後ともよろしく願いいたします。

マイク・ウェブ

次回の専門家グループ研修会:

6月21日(金)

次回の専門家グループ研修会は、2013年RI国際大会の開催期間中、ポルトガルのリスボンにて行われます。専門家グループのメンバーだけでなく、グループ参加に関心のあるロータリアンや、ロータリー財団補助金資金の管理についてさらに学びたいロータリアンは、ぜひご参加ください。研修会の詳細は、後日お知らせいたします。



素晴らしい現地視察の体験

セントルシアへの専門家グループミッションを終えて

ポール・ダースティン・ボンズ・メドロー・ロータリー・クラブ (米国メリーランド州、第7620地区)



このプロジェクトは、現在、機能していない貯水タンク(写真左)に代わる新しい貯水・給水システム(写真右)を設置するものです。



留意点:本報告では、情報保護の観点から、プロジェクト実施地名や提唱組織名などに、仮名が使用されていますのでご了承ください。

専門家グループのメンバーとして、私は10月に、セントルシア島(カリブ海の島)での貯水・給水プロジェクトの事前視察を行いました。この視察において、私が役割を達成する上で特に重要だった3つの要素をご紹介します。

技術の知識:私自身はエンジニアではありませんが、私は仕事で、カリブ海やアフリカでの飲料水の貯水や給水システムの建設管理を含む経済・地域開発事業に携わってきました。ほとんどのプロジェクトはハイチで実施されましたが、ハイチではセントルシアと同じように、クレオール語を話す住民が多く住んでいます。仕事での経験と、クラブ・地区レベルでのロータリーでの活動(特に国際奉仕活動)から、セントルシア島の北部でのこの貯水・給水システムの事前視察を行い、現地のロータリアンと交流するという今回の役割を引き受けることに戸惑いはありませんでした。

シニア専門家グループ・コーディネーターからの支援:今回の視察で特に重要だったことは、シニア専門家グループ・コーディネーターのクリスチャン・ペペラさんが送ってくださった資料です。この資料には、事前視察を実施する専門家グループのメンバーが特に気をつけるべき要素やフレームワークが記載されていました。ボランティア同意書やマッチング・グラントの授与と受諾の条件に含まれている情報(特に評価書式のテンプレート)は非常に役立ち、評価を実施する上での75のポイントをしっかりと抑えることができました。

提唱ロータリー・クラブと援助国側提唱地区による現地での準備:現地に着くやいなや、プロジェクト委員会のメンバーが私を空港で大変温かく迎え入れ

てくれました。彼らは、献身的で経験豊かなロータリー・クラブのメンバーで、私の視察期間中、常に支援を提供してくださいました。セントルシア・ロータリー・クラブは、2010年のハリケーン「トーマス」の被害が大きかった島の南部における復興プロジェクトを含め、さまざまな活動を実施してきました。この復興プロジェクトには、米国の5つの地区が支援を提供しており、特に貯水と給水システムの充実に焦点を置くということでした。私が事前視察したのはこのプロジェクトです。ロータリアンは、問題の総合的な分析を行い、クラブ会員、地域や地方自治体のリーダー、技術専門家が参加してプロジェクトの要素を話し合いました。ほかの資金源を確保した後、ロータリー財団へ提案書が提出されました。背景となった分析結果、提案書、プロジェクトのスケジュールなどは、私が出発する前にすでに利用可能となっていました。これらの資料を活用しながら、私は期限通りに評価プロセスを完了することができました。

私が事前視察を行ったこのロータリーの水プロジェクトは、無事承認され、現在実施中です。これこそ、ロータリーならではの活動だと考えます。

最近の現地視察



バスト・ガバナー、テオティモ・オニエ・レイェスさんは、カンボジアでバイオサンド水フィルターを作り、配布する-3Hプロジェクトを視察しました。

素晴らしい現地視察の体験

東チモールでの職業研修チームの評価

パトリシア・カニング・バラフラ・マラガ・ロータリー・クラブ(オーストラリア、第9455地区)



東ティモール民主共和国で地元の病院の参加チームを訪れるパトリシア・キャンニングさん(写真左から2人目)

留意点:本報告では、情報保護の観点から、プロジェクト実施地名や提唱組織名などに、仮名が使用されていますのでご了承ください。

東チモールで実施された、産科病院のスタッフを対象とした研修プロジェクトの評価についてここでご紹介させていただきます。

この評価を依頼されたことは大変光栄でした。出発前には、地元オーストラリアの病院から医療器具を寄贈してもらい、プロジェクト実施地に持って行くことにしました。私も産婦人科の分野で働いていることから、このプロジェクトは私にとって大変意義深いものであり、東チモールでの母子の健康について、出発前に勉強しました。

私が評価したこのプロジェクトは、東チモールとオーストラリアのロータリアンが参加しており、東チモールの遠隔地で、国連の家族計画プログラムを利用して産科医療を提供する助産師や医師を研修するというものです。3年間の間に5つの職業研修チームを研修する(モデルやロールプレイを利用した実地研修も含む)という条件の下、補助金が承認されました。

研修は特に、出産前のケア、高リスク妊娠の特定、緊急産科管理(出産後の大量出血、予期せぬ胎児の位置、新生児の蘇生や安定化を含む)に焦点が当てら

れました。

助産師や医療スタッフを含むすべての参加者が、この研修は地域に大変素晴らしい恩恵をもたらし、自分たちの職業的発展のためにも大変役立つものであると答えました。

病院側も、この研修からスタッフが多くを学べるようにスケジュールを調整しました。参加者は、自らのスキルを向上させることに熱心で、研修から得られる新しい知識やその結果、地域社会にもたらされる恩恵について、強い関心を持っている様子でした。研修の最後には、参加者一人ひとりに修了証が贈られ、全員が充実した表情を見せていました。

私の訪問中、病院の医療スペシャリストは、すでに研修による好ましい結果が出ていると教えてくれました。助産師はこれまで以上に自信を高め、地域社会が良い方向に向かっていくということでした。

東チモールに出発する前に私が受け取った連絡はほとんど電子的なものでしたので、実際の視察の様子をうまく想像できませんでした。また、当初計画していた通り多くの人と面会することができませんでしたが、評価者はその場の状況に応じて対応することも大変重要なことです。

2日間の滞在で、22名の職員(看護師長、助産師、医療スペシャリストを含む)と面会しました。その時、2名の患者が東チモールの首都であるディリに移送されなければならない状況でした。これは、この病院に十分な縫合設備がなかったためです。この移送には、車で4~5時間がかかり、患者にとっても大変負担の大きいものでした。

この状況を目の当たりにし、私は西オーストラリアのロータリー・クラブから、東チモールへの支援をお願いする活動を開始しました。

限られた設備しかないにも関わらず、病院スタッフは患者のケアに熱心で、大変素晴らしい仕事をしていました。

私は評価者として、このプロジェクトの中間評価を行ったわけですが、全体的に非常に素晴らしい経験をすることができました。現地の状況についてできる限りの情報を得ることができ、それを機に東チモールの人たちのために支援をお願いする活動を行うようになったのです。すでにこの評価活動について何度かプレゼンテーションを行いました。これからもロータリーの専門家グループのメンバーとして活動の推進を続けていきたいと思っています。

最近の現地視察



インドで職業研修と小口金融(マイクロクレジット)を提供する-3Hプロジェクトの評価に当たるヒンマシュ・サッカー地区ガバナ(写真左)

財団専門家任務の新手続き

ロータリー財団が新補助金用のオンライン・システムを導入するのに伴い、財団専門家アサインメントの手続きが変更されます。2013年4月以降、財団専門家がグローバル補助金および(新)地区補助金プロジェクトへの任務を承諾あるいは辞退する際、さらにプロジェクトの評価書を記入・提出する際は、会員アクセスを通して行うこととなります。マッチング・グラント、3-H補助金、(旧)地区補助金については従来の手続き通りです。新手続きの説明と、新補助金オンライン・システムの実演は、リスボン国際大会での研修の中で行われる予定です。

持続可能なプロジェクト効果の追求



学校に貯水タンク、トイレ、手洗い設備を提供するグローバル補助金プロジェクトを評価するためにタンザニアへ赴いたピーター・ブレインさん

「持続可能性」には、組織によってさまざまな定義があります。ロータリー財団は、持続可能性を「補助金資金がすべて使用された後にも、地域社会の継続的ニーズを満たすために、プロジェクトがもたらした影響を長期的に持続できること」と定義しています。プロジェクトはさまざまな形で持続可能なものとして行うことができますが、持続可能なプロジェクトはすべて以下のような特徴を備えています。

地域社会のニーズと協力: 入念な計画、さまざまな参加者からの協力、受益者のニーズと価値観の尊重が重要となります。提唱者は、以下の点をあらかじめ決めておきます。

- 受益者からの意見をどのように集めるか
- プロジェクト活動の調整にかかわる地元組織、市民団体、政府組織や自治体

物資/テクノロジー: 現地で調達でき、即用性があり、環境にやさしい耐久性のある物資を使用します。提唱者は、以下を満たす必要があります。

- プロジェクトの物資を現地で調達することを申請時に明記する。
- 現地で部品(該当する場合)が調達できることを示す。

資金: 補助金がすべて使用された後も成果を持続していくための安定した財源を確保します。提唱者は、以下のいずれかを行うべきです。

- プロジェクト資金を継続的に確保していくために、地域社会が収入を得るためのシステムを導入または支援する。
- 継続的にプロジェクトに資金を提供していくための財源が既に存在することを実証する。

知識: 地域社会の人々に新しいスキルや知識、考え方を教えることによって、人々の能力を高めます。提唱者は、以下を行うべきです。

- 研修、教育、地域での啓蒙活動を盛り込む。
- 地域社会の人々が新しく習得したスキルをほかの人々や次世代へ受け継ぐ方法を明確に決めておく。

モチベーション: 地域社会の人々が、自分たちの力で自分たちの生活を良くするという自覚と達成感をもたらします。

- プロジェクト目標の達成に向けて受益者に具体的な役割が与えられていることを確認する。
- 成果のモニタリングと奉仕活動の継続の確認を行うリーダーを決める。

モニタリングと評価: 持続可能なプロジェクトは、明確で測定可能な成果をもたらします。提唱者は、以下を行うべきです。

- 明確な目標を定め、適切な基準データを集める。
- プロジェクトの成果を測るための評

価基準と、情報収集の方法を決める。

グローバル補助金には、上記の各要素を含めることが重要です。上記の要素を盛り込んだ持続可能なプロジェクトの例は、learn.rotary.orgにある「グローバル補助金の立案」に紹介されています。また、個々のプロジェクトを持続可能とするための方法は、財団職員までご相談ください。持続可能性について、または効果的な補助金プロジェクトの計画、実行についての詳細な情報は、「[補助金管理の手引き](#)」(ダウンロード可能)を参照してください。

資金管理担当職員

メレディス・バールー
マネージャー

meredith.burlew@rotary.org

クリスチャン・ペペラ

シニア・コーディネーター、専門家グループ

christian.pepera@rotary.org

タニア・デュボン

会計監査スペシャリスト

tannia.dubon@rotary.org

ラジャシュ・アナン

会計監査シニア・コーディネーター

南アジア事務局、インド

rajesh.anand@rotary.org